2026年11月10日

報道関係各位

ザ・パークハウス戸越公園タワー管理組合
三菱地所レジデンス株式会社
三菱地所コミュニティ株式会社
日本赤十字看護大学附属災害救護研究所
日立建機日本株式会社

～高層マンションにおける災害時給水の課題解決に向けた揚水実証～

「ザ・パークハウス 戸越公園タワー」にて地域と連携した防災訓練を実施

～在宅避難時の給水課題を考える第一歩に～

三菱地所レジデンス株式会社（以下、三菱地所レジデンス）および三菱地所コミュニティ株式会社（以下、三菱地所コミュニティ）は 2026 年 11 月 3 日（火）、「ザ・パークハウス 戸越公園タワー」において、地域と連携した防災訓練を実施しました。

本訓練では、日本赤十字看護大学附属災害救護研究所の企画・監修、熊本赤十字病院国際医療救援部による協力のもと、高層マンションにおける災害時給水の課題解決に向けた揚水実証を実施したほか、品川区による一時滞在施設の説明に加え、戸越五丁目町会と連携し、居住者と地域住民が交流しながら災害時の共助について考える防災訓練を行いました。また、日立建機日本株式会社（以下、日立建機日本）の協力により、「可搬式充電設備『Go-ENE』」を活用することで、停電時を想定した給電環境のもと揚水実証に取り組みました。

【「ザ・パークハウス 戸越公園タワー」防災訓練の特徴】

(1) 高層マンションにおける災害時給水の課題解決に向けた揚水実証
(2) 帰宅困難者を受け入れる一時滞在施設としての役割を周知
(3) 町会と連携した“つながる防災”の実践
(4) 実際に見て、触れて学ぶ防災設備・資機材体験

近年、大規模災害発生時には、避難所への避難だけでなく、自宅にとどまる「在宅避難」の重要性が高まっています。一方、高層マンションでは、停電によりエレベーターや給水ポンプが停止した場合、生活用水を上層階まで運搬することが大きな課題となります。

こうした課題に対し、日本赤十字看護大学附属災害救護研究所では、災害時の給水に関する新たな選択肢を検討しており、実際の高層マンションを活用した実証の機会を模索していました。ザ・パークハウス 戸越公園タワーでは、管理組合の協力のもと、日立建機日本が提供する「可搬式充電設備『Go-ENE』」を用いて、防災訓練の場を活用した揚水実証を実施しました。

本実証では、停電によりマンションのエレベーターや給水ポンプが停止した状況を想定し、可搬式電源装置および仮設揚水セットを活用して、マンション前広場に確保した水を上階へ送水する仕組みを検証しました。



▲揚水実証見学



▲取水の様子

■高層マンションにおける災害時給水の課題解決に向けた揚水実証

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所の企画・監修、熊本赤十字病院国際医療救援部による協力のもと、高層マンションにおける災害時給水の課題解決に向けた揚水実証を実施しました。停電によりエレベーターや給水ポンプが停止した状況を想定し、仮設揚水セットおよび日立建機日本が提供する「可搬式充電設備『Go-ENE』」を活用して、マンション前広場に確保した水を 3 階まで揚水し、3 階に設置した給水設備から取水できることを確認しました。今回の実証は、高層マンションにおける災害時給水の新たな選択肢となる可能性を探る取り組みです。



▲仮設揚水セット



▲3 階での取水の様子



▲可搬式充電設備「Go-ENE」



▲水が階段を上がる様子

■日本赤十字看護大学附属災害救護研究所コメント

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所　災害救援技術部門長　曽篠　恭裕

国連防災機関（UNDRR）は、2026 年の「国際防災の日」（毎年 10 月 13 日）のテーマを「Resilience Starts at Home（レジリエンスは我が家から始まる）」としています。このテーマでは、住まいを災害の影響を最も身近に受ける場所であると同時に、レジリエンス構築の最前線と位置づけています。そのうえで、住まいの安全性や災害への備えを高めるため、政府・行政、民間企業、住民のそれぞれが役割を果たし、具体的な行動を起こすことの重要性を提唱しています。

今回の実証は、災害時における高層マンションの給水・電力インフラを迅速に復旧し、「垂直都市」としての機能を回復させるための新たな選択肢を見出す第一歩です。実証を通じて、災害時にもマンションでの生活を継続するために必要な技術や運用のあり方を検証するとともに、取り組みを共に進める仲間づくりにも取り組んでまいります。

災害時においても、垂直都市のインフラ機能を維持することは、地域全体の災害対応力を高め、災害に強いまちづくりにも貢献します。今回の実証を通じて、高層マンションにおける災害時の生活継続の可能性を広げ、「レジリエンスは我が家から始まる」という理念の具現化に貢献してまいります。

■日立建機日本コメント

日立建機日本株式会社　事業統括部　事業戦略部　阿部　愛

可搬式充電設備「Go-ENE」は、必要な場所へ移動し、さまざまな設備へ電力を供給することができる電源です。

今回の実証では、停電・断水時にマンションへ水をくみ上げることを想定し、Go-ENE を電源として揚水設備を稼働させ、災害時など電源確保が難しい環境における活用方法について検証しました。

災害時には、必要な設備を準備するだけではなく、それらを稼働させるための電源を確保することも重要となります。

本実証で得られた知見を生かし、今後もさまざまな設備との組み合わせや利用環境での検証を重ね、Go-ENE のさらなる活用につなげていきたいと考えています。

■帰宅困難者を受け入れる一時滞在施設としての役割を周知

ザ・パークハウス 戸越公園タワーは、災害時に帰宅困難者を受け入れる品川区の一時滞在施設に位置付けられています。当日は品川区より、一時滞在施設としての役割や備蓄などの備えについて説明が行われ、居住者や地域住民が地域を支えるマンションの役割について理解を深めました。



▲品川区より一時滞在施設の説明

■町会と連携した“つながる防災”の実践

戸越五丁目町会と連携し、マンション居住者と地域住民が自己紹介カードを使って、趣味や「災害時に自分ができること」を共有しました。災害時に本当に必要なのは、防災設備や備蓄だけでなく、地域で助け合える関係を日頃から築いておくこととの考えから、今回の訓練では“つながる防災”をテーマに、マンションと町会の顔の見える関係づくりを実践しました。



▲自己紹介の様子



▲自己紹介の様子

■ 実際に見て、触れて学ぶ防災設備・資機材体験

発電機・投光器の体験やウォータータンク運搬、凝固剤体験、制振ダンパー等防災設備見学などを実施しました。参加者は災害時に使用する設備や資機材に実際に触れることで、防災への理解を深めました。



▲投光器組立の様子



▲発電機体験の様子



▲凝固剤体験の様子



▲制振ダンパー見学

■防災訓練概要

項目	内容
日時	2026 年 11 月 3 日（火・祝）
場所	ザ・パークハウス 戸越公園タワー
主催	ザ・パークハウス 戸越公園タワー管理組合
協力	戸越五丁目町会、品川区、日本赤十字看護大学附属災害救護研究所、日立建機日本、三菱地所グループの防災倶楽部 ほか
参加者	57 名
主な内容	揚水実証、一時滞在施設説明、防災設備・資機材体験、交流プログラム等

【参考】「ザ・パークハウス 戸越公園タワー」について



ザ・パークハウス 戸越公園タワーは、戸越五丁目 19 番地区第一種市街地再開発事業により誕生した、総戸数 241 戸・地上 23 階建ての複合再開発タワーです。本地区は、老朽建物の密集やオープンスペース不足、緊急車両の接近が困難であるなど、防災面・安全面に課題を抱えていました。

再開発では、道路拡幅や広場整備、不燃化・共同化を進めながら地域の防災性向上を図るとともに、本物件には制振構造を採用しています。また、駅前立地を活かした都市機能の更新や、多世代が住み続けられる住環境の整備を進め、地域の新たなランドマークとして誕生しました。

今回の防災訓練は、こうした再開発事業の理念を継承し、建物の防災性能に加え、地域と連携した防災力向上を目指して実施したものです。

【参考】1923 年の関東大震災から 100 年続く三菱地所グループの防災の取り組み

三菱地所グループでは、1923 年の関東大震災以来約 100 年「防災」に取り組んでまいりました。三菱地所レジデンスは、三菱地所グループが永年培ったノウハウを取り入れ、マンションのハード面に加え、防災マニュアルや防災訓練を積極的に実施・サポートしています。防災意識の向上や訓練の進化・深化を目的に三菱地所レジデンス社員有志によるボランティア組織「三菱地所グループの防災倶楽部」を 2014 年 10 月に立ち上げ、現在は三菱地所レジデンスと三菱地所コミュニティ約 170 名の社員で取り組んでいます。

三菱地所グループの防災倶楽部はマンション管理組合に対し新たな訓練メニューなどを提案しており、これまでに三菱地所コミュニティが管理するマンション 197 物件・66,221 世帯を対象とした防災訓練をサポートしています。今後も災害に対し、迅速に対応できる体制づくりを広く浸透させていくべく、防災力強化のための活動を行ってまいります。

以　上

